

**公益財団法人鳥取県文化振興財団**  
**平成26年度 文化芸術事業の業績評価総括（育成創造事業及び鑑賞事業）**  
**《H26年4月～H27年3月》**

## 1 はじめに

当財団では、第3期指定管理期間の文化芸術事業推進コンセプトとして、「ARTS FOR EVERYONE～アートでつながる、心うるおう～」を掲げ、県民へ国内外の質の高い舞台公演の鑑賞機会の提供や地域文化振興の意義を認識し、県内の文化活動者と共に創る創造的な舞台作品の企画制作、また、アウトリーチ活動を通じ、次世代を担う若者の育成と文化芸術への参画を目的とした事業を企画・選定し、第1期および第2期の指定管理期間での成果と課題を踏まえ、第3期1年目である平成26年度の事業を実施した。特に、新たに設定した事業展開のキーワードである「①観る ②触れる ③育てる ④創る ⑤伝える」を念頭に置いた各事業における戦略立てをし、広く県民に文化芸術への参画を促進した。

## 2 概要

### （1）平成26年度の特徴

#### ① 西部地域での実施事業について

西部地域における業務強化を目的とした西部事務所の移転（アルテプラザ開設）に合わせ米子市公会堂リニューアル記念として、「大阪フィルハーモニー交響楽団演奏会」ならびに「松竹大歌舞伎」、また、今回でホールツアーが最後となる「加山雄三コンサート」の大型事業を戦略的に実施したことで、西部地域での財団友の会プレミアム会員増へとつながり、また、3事業全て完売となった。

<参考> 友の会会員数近年の推移

年度	(H12)	H22	H23	H24	H25	H26
会員数	(1,200)	420	420	450	520	817

※1 H24までの減少理由 ①鑑賞公演数の減少 14公演（H9）～11公演（H12）→9公演（H25）②商業性、話題性の公演の減少

※2 平成26年度よりメール会員制度を新設し現在の会員数は510名

#### ② 地域ニーズに合わせた特色ある実施事業について

地域ニーズに合わせバランスを考慮し幅広いジャンルから選定・実施した事業のうち東部地域では「HANAGATA 狂言会」、中部地域は「ディズニー・オン・クラシック」、西部地域では「大阪フィルハーモニー交響楽団演奏会」、「松竹大歌舞伎」、「加山雄三コンサート」全3事業の評価が高かった。一方、東部の「blast!」、「レ・ヴァン・フランセ」、中部の「林英哲」、「JAZZ DAY」においては集客目標を4割以上下回る結果となった。

#### ③ 若年層へ鑑賞を促した事業について

事業選定時において若年層向けについては、子ども向け事業と銘打つわけではなく「子どもにも理解でき本物を鑑賞できる事業」を基本に選定・実施し、「blast!」、「ディズニー・オン・クラシック」、「HANAGATA 狂言会」において家族連れが多く見られた。

#### ④ 育成・創造事業について

第3期指定管理期間となり、育成・創造事業についても前期からの見直しを行い、平成26年度は準備を含め複数年で実施する「プロデュース創作公演」をはじめとする全6事業を実施した。若年層の育成を目的とした継続事業の「高校生のためのコミュニケーション事業」、「鳥取の芸術宅配便」に加え新規の「鳥取プラスアカデミー事業」では多くの参加者に対し体験機会の提供を行った。「鳥取県青少年郷土芸能の祭典」では地域とのつながりと伝統芸能の継承を基に「発信」、「交流」を促した。また、鳥取県との連携による友好交流地域である中国吉林省の学生の出演による新たな展開も生まれた。準備年としての「鳥取県クラシックアーティストオーディション」については「エントリー事業」を実施し、明日を担う若手アーティストへの意識向上とレベルアップを図った。今期のメイン的な事業である「プロデュース創作公演」については準備年であることから、財団の専門性を生かし地域のアーティストと共に創作的な事業内容となるよう実施の基本体制を敷き準備を行った。

#### ⑤ 他の関連機関との連携について

以前から、県内の文化機関、マスコミ等と連携し、より強化した体制で広域に事業展開を行っているが、平成26年度は、(一財)鳥取市教育福祉振興会 1事業 (HANAGATA 狂言会)、(一財)米子市文化財団 2事業 (大阪フィルハーモニー交響楽団演奏会、松竹大歌舞伎)、(株)山陰中央テレビ 1事業 (blast!) の計4事業を協同で実施したことで、更なるネットワークの構築を行った。

### (2) 成果実績

(※平成26年度業績評価【鑑賞公演】参照)

### (3) 外部評価からの課題点についての整理

#### ① 集客について

集客目標を大きく下回った事業「blast!」、「レ・ヴァン・フランセ」、「林英哲」、「JAZZ DAY」については、地元活動団体との連携を踏まえた販促を行ったが、限度があることから今後は検討を要する。

#### ② 専門性が強い公演について

「松竹大舞伎」については、新規鑑賞者も含め幅広い年代の客層であったが専門劇場ではない為演出的に不可能な点もありどこまで本物に近づくかテーマである。また、「レ・ヴァン・フランセ」においては、コアなクラシックファンには受け入れられ、更に財団への期待の声も寄せられた。また、音楽部の学生には受け入れられた反面、一般にはなじみが薄い傾向があり、ニーズの把握と方向性の検討が必要。

#### ③ 会場選定について

アンケートでも多数指摘されたのが、米子市公会堂のバリアフリーに係るハード整備不備、米子コンベンションセンター多目的ホールでの女性トイレの不足であった。今日、バリアフリー、ユニバーサルデザインが一層求められていることから、ソフト的な対応も含めて継続検討が必要。

#### ④ 育成・創造事業について

「鳥取の芸術宅配」では高評価であるが、長期実施事業であり現在次のステップに向け内容の整理を行っているが、一部において講師のレベル向上を指摘されている。同様に演劇、音楽事業においても指導者のレベル向上が望まれている。また、「青少年郷土芸能の祭典」については、より地域に根付いた事業となるよう支援組織(団体)の構築の検討も求められた。「鳥取県クラシックアーティストオーディション」は参加者が減少傾向にあるため、実施方法等再検討が必要。